

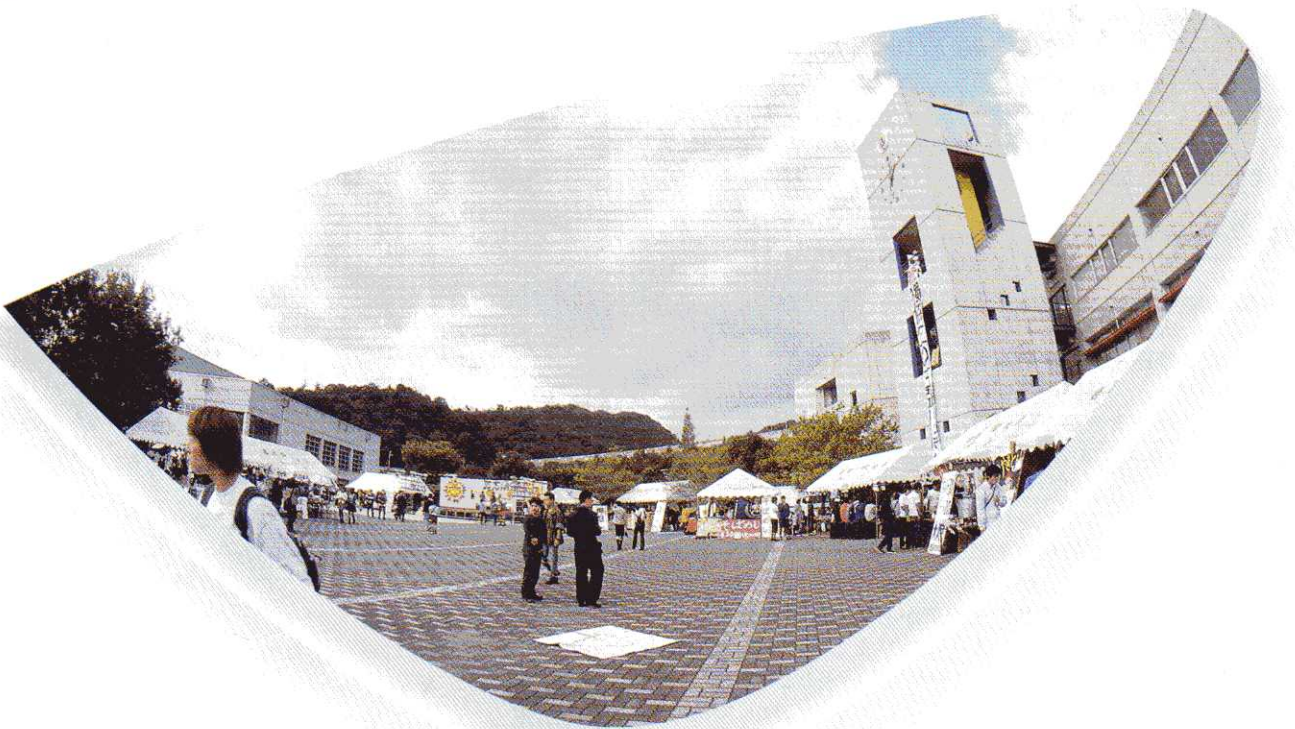


DOKKYO

姫路獨協大学同窓会報

2000年8月15日

Vol.6



DOKKYO NOW ■ 冬の時代到来。どうなる姫路獨協大学？

REPORT ■ 新入生998名が晴れやかに入学式

同窓会総会のご案内

と き／10月22日(日)AM11時～
と ころ／学生会館1Fラウンジ
(体育館西隣)

- NEWS**
- 学歌CD完成
 - コンサルタントとして活躍、西村成晴さん
 - 柔道部が念願の一部昇格
 - 剣道部主将・高辻君が全日本大会に出場

冬の時代到来。どうなる、姫路獨協大学？

ほんの数年前までは、大学は建てさえすれば学生が集まってくるといわれていました。その結果、今では日本の大学は1000校を超えるまでになっています。しかし、バブルの崩壊や少子化の波を受け、大学にもいよいよ冬の時代がやって来ました。私たちの母校も例外ではありません。いったい姫路獨協大学はどうなるのでしょうか？ “21世紀の生き残り策”を昨年10月に就任したばかりの大原勇事務局長に聞きました。

全国の大学数は、なぜここまで増えたのでしょうか？

それは簡単です。ひとことでいうと大学に行きたいという人口が増えたから。例えば、平成元年の18歳人口は200万人で、そのうち100万人が大学に進学したいというのに、当時は大学全体の収容人数合計は60万人しかありませんでした。ですから大学がどんどん増えたわけです。それが今では、18歳人口150万人で進学希望者75万人。なのに大学の収容人数は80万人にまで膨れ上がっています。別の言葉でいえば、大学を選ばなければ誰でも進学できるということです。しかも平成20年になると、18歳人口は120万人にまで減ってきます。いわゆる“大学冬の時代”です。

大学同士の学生獲得競争が

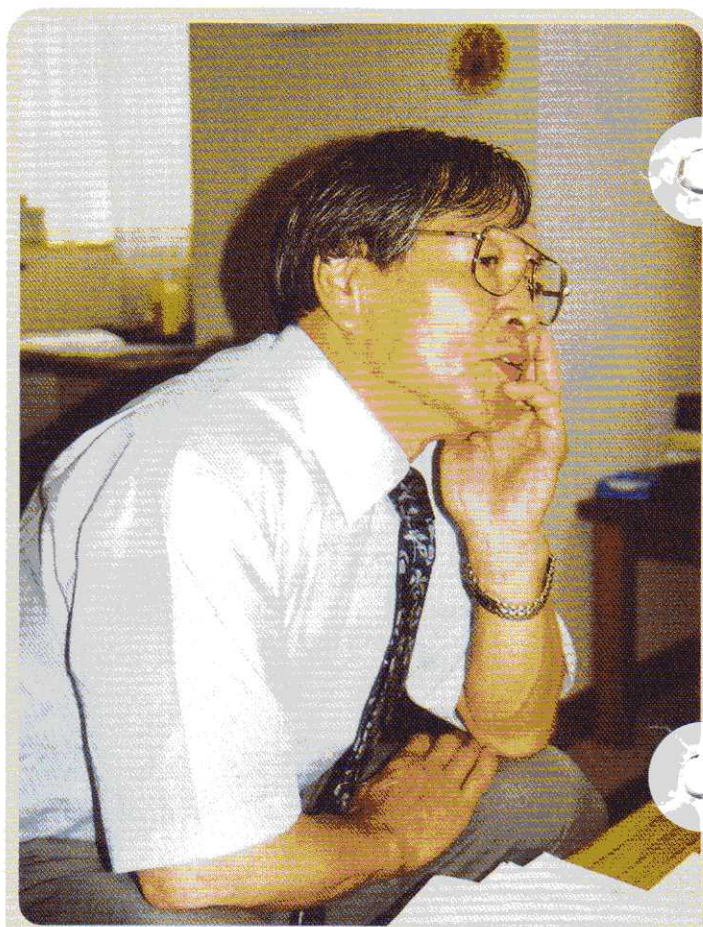
これからますます厳しくなりますね。

そのためには、大学が学生を引き付ける個性を持たなければいけません。ただ、姫路獨協大学の場合は地域の方々が資金を提供してくれたおかげで、大学側の初期投資が少なくすんだのは大きい。ということは借入金がないということ。だから教員数も99人が基準のところ134人も擁することができています。基準に比べて3割増の教員がいるわけだから、相当徹底した少人数教育をやっているといえます。これが評価されれば、姫路獨協大学の“売り”の1つになります。それと教員の意識改革。これまで、一般教育科目を教える教員は教育の責任が2年間しかありませんでした。だけど、平成3年に大学設置基準の大変革があり、大学が教育目的に沿って一般教育の改革ができるようになりました。そこで、今年から一般教育科目を学部ごとの専門教育科目ということにして、全教員が一般教育相当科目を担当するとともに、学生に対して就職まで責任を持たざるをえない体制にしました。そのほかにも、非常勤講師の見直し、特に集中講義科目の削減と70歳以上の非常勤講師の退職など、徹底して教育組織を見直しています。

高等学校や進学希望者だけでなく

地元住民、企業からも評価を得なければいけません。

そのために、大学はまじめにやってきたという結果を人材の輩出という形でお返ししていかなければなりません。まずは先程述べたように教育組織を作り替えました。もう1つは外国語学部の中身もまったく作り替えました。今まで、英、独、中、日の4学科の中に共通科目があったわけですが、語学の教育に縛りが強くて共通科目を学ぶことができませんでした。そこで、語学教育はある一定水準まで勉強し、これを基礎として国際文化・環境文化・情報文化を学びたいという人のために、来年から国際文化コミュニケーション専攻を開設します。それに加えて、外国語学部にせっかく入学したのだから外国語が話せるようになってもらうため6週間の海外語学研修制度も取り入れます。海外研修の費用は、成績が優秀な学生を大学が公正に選考し、それに対しては大学が



大原 勇 事務局長

昭和15年7月11日生まれ。金沢大学卒業後、昭和39年に文部省入り。静岡大庶務課長、筑波大大学院課長、京大庶務課長、神戸大庶務部長、室蘭工業大事務局長などを経て平成11年10月、姫路獨協大学事務局長に就任。

全額または一部を負担することにしました。次のステップとして、金銭的に苦しい学生は社会に出てから返してもらおうという15周年記念国際交流基金を立ち上げたいです。

わずかな期間でかなりの改革に取り組んでいますね。

まだ残っています。法学部です。すでに経済情報学部は経営情報学科が立ち上がり、経済、経営、情報という3つの学問分野を統合した新しい学問領域を作り始めました。残る法学部を新しい時代にどのように対応させていくかが悩ましいところです。

